

シリーズ”私の風景誌”より VII

(2009年～2010年)

My Record of the Scenery Series VII

(Wood and Iron Works Sculpture)

坪井勝人

Katsuhito Tsuboi

新ギャラリーとキャンパス空間での展示

2009年4月、名古屋造形大学内に新ギャラリーが誕生した。このギャラリー空間とキャンパスの屋外空間で作品を二週間展示するプランを考えた。新ギャラリーには、ギャラリー入口前の吹き抜け空間部分とギャラリー内部空間、及びガラス越しの風景を考慮した新作を制作展示する事とした。またキャンパス内の屋外空間には、キャンパス全体を「彫刻の森」とし、私のここ数年のテーマである「種子」や「大地の譜」の作品を展示。

まず、新ギャラリーでの新作は、「森の回廊」。ギャラリーは古代建築の回廊を連想させ、その回廊の柱のように並ぶ「樹」が大地から伸びあがる様を「森の回廊」という形で表現した。そして、来観者が緩やかにその間を巡り、作品に触れることができるようにした。

一方、屋外展示スペースとしてのキャンパスは、緑豊かな広がりを持ち、どの場所に作品を置いてもすんなりと調和するように思え、作品の設置プランはすぐに決まった。キャンパス全体を「彫刻の森」と見なし、このキャンパスで学ぶ学生たちが育ってゆく様を「造形の森の種子」という作品に思いを込め、各屋外スペースに置いた。そして、ギャラリーの前の吹き抜け空間には「七つの森の種子」、その奥にある待合室空間にはネオン管と鉄の作品、またバス停から階段が上がったギャラリー手前には風をイメージした作品を展示した。

丁度この時期は、梅雨時であり、二週間の展示期間中に於いては、開催初日と最終日の数日は晴れ間があったが、後の日は殆どが雨で、屋外作品には雨が溜まり、また、別の表情と風景が感じられ、新しい発見もあり、雨に濡れた「森の種子」や「大地の譜」も面白く映った。



大地の譜「森の回廊」2010



森の種子



森の種子



大地の譜



森の種子



大地の譜

新ギャラリーでの個展 2010年7月6日(月)～17日(金)

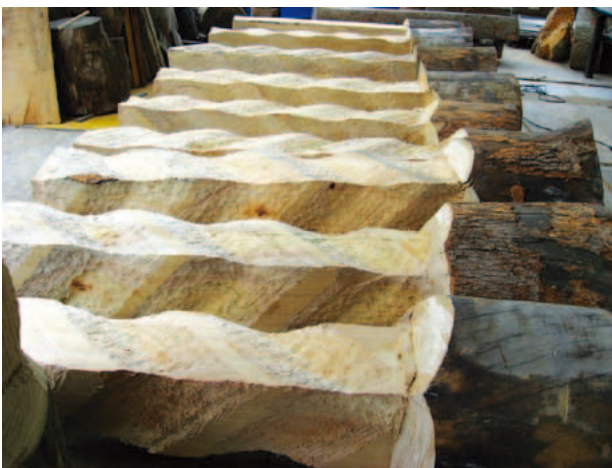
新しく出来た新ギャラリーはD2,D3ギャラリーとして2010年4月にオープンした。西側がオープンなガラス窓になっていて屋外の緑が借景として作品に広がり、又、午前と午後、そして日が暮れてからのギャラリー、ガラス越しの周辺風景の変化がギャラリー内の彫刻作品にいろいろな表情を持たせてくれる。



大地の譜「森の回廊」2010



大地の譜「森の回廊」2010



新ギャラリーに展示のため制作中の作品、いずれも素材は長さ2m以上の楠



大地の譜「風に・・・」



小牧駅前モニュメント「大地の譜」



2010年 行動展「実のない話」

鉄の作品について

久しぶりに鉄を素材としたガス溶接による作品を主に制作し、名古屋栄のアートサロン金工堂で発表をした。ギリシア神話にあるイカロスとダイダロス父子の話しをモチーフに、鉄と遊びながら余技的に溶接の作品を作ってきた50点中の22点を展示した。約15年程前のギャラリーアルテでの発表以来である。今回はギリシア神話がテーマであったが、サーカスシリーズや自転車シリーズなども、時間がある時に楽しく、少しずつ制作している。



人物の寸法は各20cmくらいで鉄を素材にガス溶接で最後に真鍮の口ウビキ仕上げをしている。

シリーズ私の風景誌より「木箱のある風景」

忘れかけていた私の断片的な記憶やイメージを、レリーフ状にした銅板による鍛金作業で木箱の中に表現した。銅板の緑青の錆を「時間の錆」として浮き上がらせる。そこに「時間の種子」「宇宙の種子」そして「万物の種子」がカプセル化され木箱のある風景となってイメージの空間に飛び出してゆく。名古屋、伏見での名芳洞ギャラリーの個展では18点の作品を木箱の作品として展示した。



ギャラリー名芳洞にて個展発表 2010年11月30日(火)～12月19日(日)